

# アラウンド GOGO 55

## この街の片隅で

中村くに子



様を描いている時。

描き上がったお地藏様と話をしているところは、誰かに見られたら「中村、ついに始まったかー」と思われるかも知れませんが、私にはお地藏様の声が聞こえるのです。

「何がほしい？」と聞きながら鉛筆を持っていくと、そのお地藏様に合う景色だった道具だったり、不思議なことに描けるのです。

毎回そうではありませんよ。時々いたずらをされてとんでもない絵になることもあります。それはそれです。面白い作品になります。

\*

いつまで手や足の自由がきくのかは確かに不安がありますが、私の場合は、あれができなくなったらこっちというように、自分なりのやり方でチャレンジしてしまう欲張りおばさんなかもしれませんね。

(愛知支部事務局・名古屋市在住)

私が全障研に足を踏み入れてからはや36年目に突入します。

「全障研が私の人生を変えてくれた」と言っても、けしいて言い過ぎではありません。1996年、これまた全障研のパソコン通信で知り合った人が家を出る決意をさせてくれました。

\*

そこから気づいたら、もう20年。障害があっても自立できるのだと走り続けてきました。

幸い、ここ名古屋は交通の利便性には優れていて、車いすでの外出に困ることはあまりありませんし、実家で味わった、突き刺さるような視線

もほとんどありません。おそらくそれは私自身が開き直れたから？

「私は私だ」。見るなら見てみる」オーラを自然に出していたのでしよう。普通に生きる

ということはどういうことなのかも知れません。

\*

55を越えると自分の老後のことが頭をよぎる。昔、「55になったら老人ホームを探しておいた方がいいよ」と言われたことがあります。

うーん。確かにそれは分かっている。分かっているけど考えたくないな。

可能な限り自宅で暮らしたい。そのために今、できることはやはり周りに1人でも多く理解してくれる人をつくっていくこと。共感できる人を増やしていくしかありません。いくつになっても同じなんです。

\*

そんな私が私でいられる時は、スケッチブックにお地藏